劇
揚
や
ラ
イ
ブ
ハ
ウ
ス
が
繁
豪
り、
「
替
讃
の
儀
」
と
し
て
緬
ら
れ
る
滋
畷
谷
匿
の
下
貌
派
麟
鰯
遡
淋、
約
６０
隻
融
の
遵
駿
誹
鰯
「
鰯
勤
弘
号
線
」
の
髭
葬
を
巡
り
大
き
く
揺
れ
て
い
る
。
犠
の
将
爽
像
に
影
饗
を
専
え
る
誹
爾
だ
け
に、「
災
蜜
に
強
い
儀
づ
く
り
の
機
会
は
命
し
か
な
い
し
「
下
耽
派
ら
し
さ
が
破
壌
さ
れ
る
」と
、
賛
成
・
反
対
を
警
き
込
ん
だ
論
争
は
激
し
さ
を
猶
し
て
い
る
。
小
蘭
急
線
と
察
王
弊
の
顧
線
が
交
わ
る
下
北
沢
駿。
１
鷺
の
桑
鱗
蜜
は
約
６
刃
人
に
土
る。
小
踏
が
入
り
纏
ん
だ
麟
燭
遡
は、
小
綴
嬢
窪
舗
や
佳
璃
が
蜜
繁
し
、
１
９
７
０
鎧・代
か一ｂ、
出賦燃…
や
フ
ァ
ツ
シ
轟
ン
を
戴
め
て
着
奮
が
築
う
街
と
し
て
人
気
を
繁
め
て
慧
た
。
毘以峯
に
わ
た
り
季
つ
か
ず
だ
っ
た
こ
の
遵
路
討
蘭
淋
慈
浮
土
し
て
き
だ
の
は、
「
鰯
触
ず
の
麟
切
」
の
鰯
漕
を
蟹
約
と
し
た
小
蘭
慧
糠
の
遵
続
立
体
交
養
察
繋
の
鑑
騒
が
あ
る
。
都
は
λ
Ｏ
０
３
隼
－
周
二
下
北
沢
麟
を
竃
む
代
々
末
上
漂
－
梅
ケ
猛
蘭
（
約
２
・
２
請
）
を
地
下
化
し、
小
顧
頼
線
と
交
麓
す
る
檎
鋤
弘
号
糠
を
軍
癒
化
で
整
鰭
す
る
都
碕
訪
繭
愛
璽
漢
憲
を
行
つ
た
討。
鰯
で
は
鐙
大
鰯
蝸
燃
の
遵
騰
淋
、
ブ
テ
ィ
ッ
ク
帯
飲
食
麿、
僅
蜜
が
蜜
繁
曾
る
下
北
沢
駅
北
鰯
を
遜
遇
す
る
。
霞
は
、
小
園
慈
線
の
地
土
溺
に
バ
ス
串
夢
ク
シ
ー
が
桑
り
入
航
ら
批
る
駅
繭
広
場
（約
５
３
０
◎
軍
湾
繍）
を
鰯
騎
に
整
鰭
す
る
討
灘
で、
「
構
駒
躰
簿
綴
抜
慧
で
の
下
北
涙
麟
鰯
迦
の
街
づ
く
り
は
あ
り
爽
な
い
」
と
強
調
貧
る
駿。
鰯
遡
の
瓢
姦、
繭
繕
会
の
嚢
嚢
ら
に
よ
る「
街
づ
く
り
懇
談
会
」
の
メ
ン
バ
ー
で、
下
北
沢
鰭
ｏ
繭
揺れる下北沢
纐菖瀦
圏を灘欝約絡鶴醗驚議騰
院蜜示で針懸されだの斌総豪りｏ獲は今緯度刺こ１第１ 鰯
工ぼ（約２５０窃）の蓼繋認珂綿譲を鍬こ筍い、爽鋒慶か
ら閑鑓交渉１こ入る着針ｏ駅前広場衰会めた総璃業蟹（豚
捲計）は約１４０機円、 ２Ｃ１３隼魔の究成を簿擦す。
－
陰
■
資い物霧でに
慧わウ下北源
の簿憲犠
蟹
三
さ
ん
（幻）は、
「
下
塊
沢
に
と
っ
て
㌔
こ
の
談
繭
は
致
爺
約
ｏ
捗
行
養
優
先
で
発
震
し
て
琶
だ
鶴
淋
破
壌
さ
れ
る。
今、
多
額
の
税
姦
登
投
入
し
て
遵
路
を
作
る
必
嚢
が
あ
る
の
か
」
と
僕
る。
金
予
さ
ん
ら
は
、
欝
閲
す
る
ミ
ュ
ー
賛威
災
害
に
強
い
街
実
現
へ
反
対
「
歩
行
者
優
先
一
壊
れ
る
唐
衡
振
翼
縫
合
の
畜
翻
濁
蜜
麹
蓼
髪（６９）
は、
「
遵
踏
淋
縫
赫
必
嚢
だ
と
は
懸
わ
な
い
然、
儀
の
輯
關
発
の
乎
載
一
趨
の
チ
ャ
ン
ス
総
」
と
期
縛
す
る
。
そ
れ
で
も、
飽
充
の
繭
磨
嚢
ら
の
懸
い
は
複
雑
だ⑪
鱗
繭
滋
鰯
茅
憲
地
で
衣
斜
晶
麿
を
縫
濠
貧
る
勇
性（耽）は
「
役
訴
淋
一
慶
漢
め
た
訪
鰯
は
変
わ
ら
な
い
。
立
ち
遺
慧
最爽鰯鵡㎜
㊧⑩偉鳶Φ 進展へ
燃
嫡
漢
れ
ぱ、
構
償
金
を
も
ら
つ
て
副
遼
す
る
」
、
遵
踏
予
憲
地
で
ブ
テ
ィ
ッ
ク
を
経
驚
貧
る
女
燈
（㈱）は
「
下
北
派
だ
か
ら
こ
そ
私
の
繭
売
斌
珂
誰
だ
っ
だ。
遵
鰹
に
は
鱗
鰯
辰
鮒
し
て
い
くし
と
譲
っ
慈
満岱
震
鐵
体
も
潜
発
な
動
慧
登
箆
せ
て
い
る
ｏ
「
Ｓ
Ａ
ｙ
児
？
盗
逓
下
耽
沢
」
廿
筒
㈹
義
の
籍
予
ジ
シ
却
ン
ら
を
鱈
い
芯
ラ
イ
ブ
串
霧
篭
濱
動
な
お
を
騒
鰯
し
て
い
」
る
譲。
淀
「、
下
北
深
フ
凄
－
ラ
ム
」
然
嚢
で、
鰯
潜
犬
学
灘
工
学
部
の
小
撚
歴
桑
教
授
は、
「
犠
登
読
れ
る
人
も
禽
め、
砥
く
衡
の
将
棄
鑑
を
議
論㎜貧
べ
幾〕蔵
の
に、
犠繍蛤
一諦
繭
の
縫
遼
淋
漢
ず
究
に
務
る
」
と
綴舳鰯
登
添
し
て
い
菊
ｏ